

第6章 高専の教育（目標）について

6.1 はじめに

本章では、専攻科修了生アンケートおよび本科卒業生アンケートを基に、本校の教育内容に対する専攻科修了生および本科卒業生の満足度について説明する。さらに、本校の教育目標に対する専攻科修了生の達成度および就職先企業の評価について述べる。

本章と関連するアンケート集計結果の項目は、以下のとおりである。

- ・専攻科修了生 :【3. 高専7年間の教育に関する項目】
 :【4. 高専専攻科に関する項目】
 :【5. 専攻科教育目標について】
- ・本科卒業生 :【3. 高専5年間の教育に関する項目】
- ・企業 :【4. 教育目標について】

6.2 教育内容の満足度

(1) 教育内容でよかったもの

まず、専攻科修了生アンケートの質問3-1および本科卒業生アンケートの質問3-1の結果について説明する。専攻科修了生および本科卒業生のどちらのアンケート結果においても、『専門教育』、『実験実習』、『卒業研究』が「高専における教育でよかった」項目として上位に挙げられている。また、これらに続いて『コンピュータ関連教育』、『クラブ活動』にも高いポイントが得られている。これらの項目は、本校の学習・教育目標の中で謳っている『基本的素養』(A1)、『情報技術』(B1)、『自主性・自立性』(B2)等のキーワードとも関連し、多くの卒業生・修了生がこれらの教育内容に満足していることがわかる。

一方、学習・教育目標の『国際理解・倫理観』(A2)と関連する『教養教育』、『英語教育』に対しては比較的低いポイントしか得られていない。この集計結果からマイナスの評価を直接くみ取ることはできないが、ほとんどの卒業生・修了生が本校の『教養教育』および『英語教育』を「よかった」とは思っていないことがわかる。また、『創造教育』についてみると、本科卒業生よりも専攻科修了生の方が「よかった」と思っているようであるが、得られたポイントからみれば『クラブ活動』より低い。この評価は、学習・教育目標において『感性・創造性』(C2)というキーワードがあるにもかかわらず、低いと言わざるを得ない。

同様の質問を専攻科に限定した専攻科修了生アンケートの質問4-1の結果は、上で述べた質問3-1の結果とほぼ同じ傾向を示している。しかしながら、『特別研究』のポイントが他の項目より高く、『英語教育』のポイントも質問3-1に比べて高くなっている。このことから、専攻科修了生は、専攻科において本科より充実した研究活動を行い、『英語教育』を受けることができたと感じていることがうかがえる。

(2) 項目別の教育内容の満足度

次に、専攻科修了生アンケートの質問3-2から3-7、質問4-2から4-7、本科卒業生アンケートの質問3-2から3-7の結果について説明する。これらの結果をレーダーチャートにまとめると、図6-1のようになった。

この結果からわかることは、(1)で述べたのと同様に、専攻科修了生および本科卒業生のどちらも『専門科目教育』、『卒業研究・特別研究』、『情報処理関連教育』に満足しているが、『教養科目教育』と『英語教育』に満足していないということである。特に本科の『英語教育』と専攻科

の『教養科目教育』については5段階評価で3を下回る低い満足度であり、(1)で述べたように「よかった」と思っていないだけでなく、どちらかと言えば「不満」と感じていることを表している。これらのことは、学習・教育目標の(A2)「国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと」について十分な教育を受けていないということであり、早急な改善が望まれる。

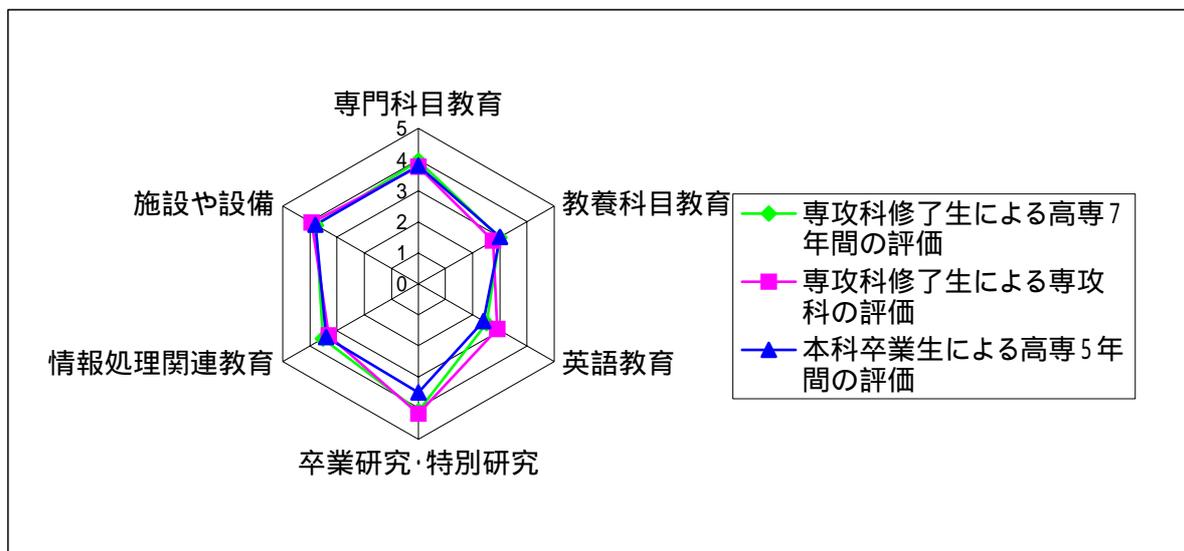


図 6 - 1 教育内容に対する満足度

(3) 複合教育について

専攻科修了生アンケートの質問3-8および本科卒業生アンケートの質問3-8のどちらにおいても、本校で行ってきた7年あるいは5年の一貫教育は、高校から4年制工学系大学に進むのと比較して「有効である」との回答が4分の3得られており、本校の複合教育が評価されていることがわかる。

6.3 教育目標に対する達成度

専攻科修了生アンケートの質問5-1から5-6および企業アンケートの質問4-1の結果について説明する。図6-2は、これらの結果の平均値をレーダーチャートにまとめたものである。

なお、教育目標の各項目は、次のとおりである。

- (A1)「複合分野の基礎となる基本的素養を身につける」
- (A2)「国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」
- (B1)「情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につける」
- (B2)「自主性と自立性を養う」
- (C1)「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につける」
- (C2)「課題を把握し解決する能力を身につけ、感性、創造性を養う」

全体的にみると、企業による修了生・卒業生の評価は、4段階評価の3以上の評価が得られている。このことから、修了生・卒業生は平均的にみて本校の教育目標をほぼ達成していることがわかる。しかしながら、本科卒業生に対する(A2)の能力と専攻科修了生に対する(C1)の能力に対する評価が他の項目に比べて若干低い。特に、(A2)の項目については、本科卒業生に対して2社が、専攻科修了生に対して1社が、明らかに不満であることを意味する“1”の評価

を下しているのが気になる。専攻科修了生自身もこの項目が「達成できていない」と自覚しており、6.2節でも述べたように、この項目に関する教育内容が早急に改善されるべきである。

専攻科修了生の自らに対する達成度の評価では、全ての項目に「4.できなかった」の回答がある。自己評価をする際に厳しくしたとの見方もあろうが、今後、すべての修了生および卒業生が「できなかった」と答えることのないよう、しっかりと教育を行い、学習の機会を与えるべきである。

企業アンケートの質問4-2において、本校の教育目標の中で最も「特に重要である」と思われた項目は、(C2)で、それに続いて(B2)が高いポイントを示した。これに対して最も低かったのは(A2)であり、その次に低いのが(B1)であった。この結果は、(A2)や(B1)が「重要ではない」ことや「必要ない」ことを示すものではないが、アンケートに回答いただいた企業においては、他の項目に比べて重要度が低いことを示している。企業の事業内容や形態によって、これら6つの項目に対する重要度の認識にバラツキがあるのは当然であるが、本校がこれらの項目を教育目標に掲げる以上、学内における教職員もその重要性について認識し、学生に対してはもちろんのこと、企業に対しても説明できるようにしておく必要があると思われる。

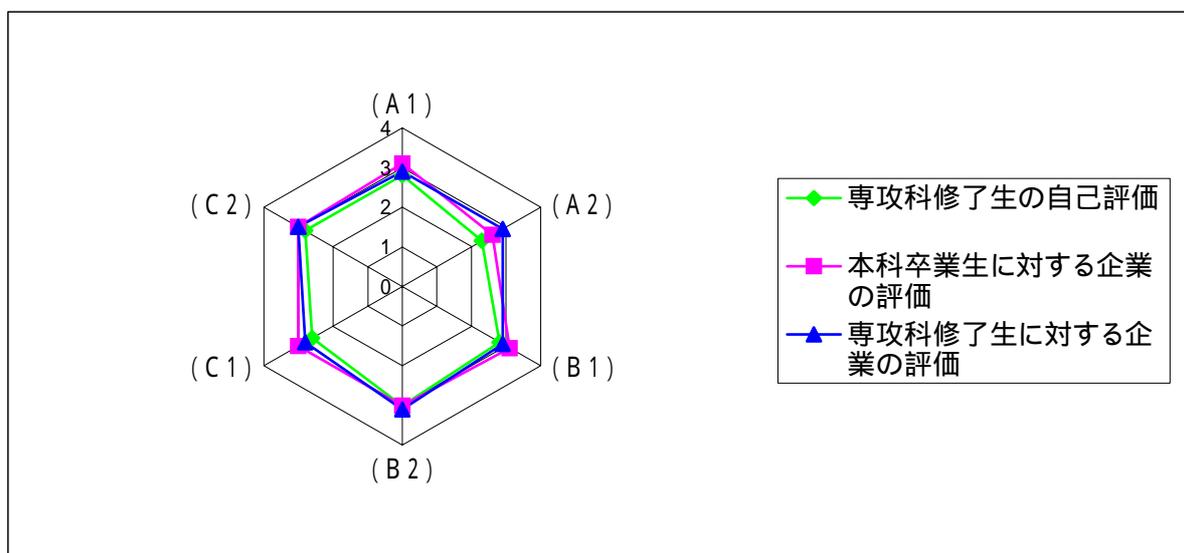


図6-2 教育目標に対する達成度

6.4 本章のまとめ

本校の教育内容に対する専攻科修了生および本科卒業生の満足度と本校の教育目標に対する専攻科修了生の達成度および就職先企業の評価について調べた結果、以下のことが明らかになった。

本校が行ってきた複合教育による『専門科目教育』、『卒業研究・特別研究』、『情報処理関連教育』は、専攻科修了生および本科卒業生、さらに彼らを採用した企業にとって概ね満足できるものであったといえる。一方、教育目標の(A2)と直接関係する『教養科目教育』および『英語教育』は、これまで十分であったとは言い難く、今後の教育内容の充実のために、全教職員がこの項目に対する重要性を理解し、改善する必要があると思われる。

(担当：張間)

